



へんしん!
ほ・す・た・あ
めいさくポスター

12月の
おはなし

かざじぞう

昔々ある所に、貧しいおじいさんとおばあさんが住んでいました。大みそか、明日はお正月だというのに、食べ物を買うお金がありません。

おじいさんは、手作りのすげ笠を売りに、町に出掛けました。

「笠はいらんかねえ、

笠はいらんかねえ。」

けれども、町の人たちは皆忙しそうで、誰一人、見向きもしません。

雪が降り始めたので、おじいさんは笠を売るのを諦めて、家に帰ることにしました。

帰り道、おじいさんは六体のお地藏様を見つけました。真っ白に雪をかぶって寒そうです。

「おやおや、お地藏様。

お寒いことでしょう。」

おじいさんは、お地藏様の雪を払って、売り物の笠を一つ一つかぶせてあげました。ところが、最後のお地藏様の分が一つ足りません。

そこで、おじいさんは、

「お地藏様、わしのほっかむりをかぶってくださいな。」

そう言って、自分の頭に巻いていた手拭いを、かぶせてあげました。

家に帰ったおじいさんは、おばあさんに今日の出来事を話しました。

おばあさんは、
「それはよいことをしましたねえ。」
その夜、おじいさんとおばあさんは、幸せな気持ちで、眠りにつきました。

真夜中、二人は、ズシン、ズシンという大きな音で目が覚めました。その音は、おじいさんとおばあさんの家まで近づいて来ます。不思議な声もします。

「じいさまの家はどこじゃ、どこじゃ。」

そして、ドスン、ドスンと、物を置く音が聞こえました。

おじいさんとおばあさんが、恐る恐る戸を開けると…。

なんと、米や餅、魚などたくさんのごちそうがどっさり積んであるではありませんか。

そして、笠をかぶったお地藏様たちが、帰って行く後ろ姿が見えました。

一番後ろのお地藏様は、おじいさんの手拭いをかぶっています。

おじいさんとおばあさんは、
「なんて、ありがたい。」

こうして、おじいさんとおばあさんは、お地藏様からの贈り物のおかげで、無事にお正月を迎えることができました。

(おしまい)